

学区の概要

(1) 学区について

本校は袖浦地区の中心に位置し、京田川・赤川が潤す田園地帯の中にある。校舎の広い窓からは、秀峰鳥海山と月山を一望でき、環境的に大変恵まれている。

270年ほど前から延々と伝承されている黒森歌舞伎は、伝統とよき習慣を大切にしている地区民が、四季を通してひとつにまとまることのできる心のよりどころとなっている。

黒森地区の西部砂丘に位置する黒森山の黒松は、東北横断高速道路などの工事のため随分少なくなってきたが、約130年ほど前に苦勞しながらも佐藤民蔵を中心に地区民が民有地として植林したあとが、今でもしのばれる。また、ほぼ同時代に活躍した酒井忠良・守平親子は「庄内柿」の栽培普及に尽力したと伝えられている。

このようなことが支えになって、地理的・人的環境を生かして、米の他に砂丘畑作での果菜類の収穫が多い。特に、柿やメロン・トマト・アスパラ・水菜・大根等の出荷は生計の糧となっている。

また、最近では、園芸用・切り花用の花作りが盛んで、1年を通して農作業に追われている専業農家もある。現状として、生計を立てるための主たる職業では、会社勤めが多くなり、兼業が増えてはいるものの、近隣とのつながりでは、農業を基盤とした地域性が活かされた諸会合が多い。

黒森小学校区には、約359戸の世帯と33戸の本校児童在籍の家庭がある。保護者はもちろん地区民は学校教育に熱心で「自分たちの学校」という意識を持っており、とても協力的である。学校が関係する諸行事・諸会合には万難を排して参加してくれるなど関心が高い。子どもたちも素直・純朴な人柄であるので、さらに社会性・公共性を身につけさせていきたい。

これまで、黒森小学校は、数回「子どもたちの学習のためにより良い土地」と「より良い建物」を求めて移転している。主なものとして、明治7年に日枝神社近くに設立されて以来、明治28年に現在の黒森公民館の所へ移転。昭和25年には葭葉山校舎へ移転。さらに平成5年に現在の一の木校舎への改築移転がある。

今後も、学校・家庭・地域との連携を深めながら、21世紀に羽ばたける子どもの育成に取り組んで行かなければならない。

